

# 平成 26 年 3 月 天理市自立支援協議会全体会

平成 26 年 3 月 3 日(月)午後 1 時 30 分～ 午後 3 時 30 分

天理市役所 5階 533会議室

## <議題>

1. あいさつ
2. 障害者相談支援活動報告(平成 25 年 10 月～平成 26 年 1 月分)
3. 平成 25 年度各専門部会の総括
4. 計画相談について
5. その他

## <連絡先>

天理市障害者相談支援センター

〒632-0013

天理市豊井町87 天理市地域活動支援センター内

TEL&FAX 0743-63-1224

ホームページ <http://web1.kcn.jp/shougai-soudan/>

メールアドレス [tenri-syougaisya-soudan@kcn.jp](mailto:tenri-syougaisya-soudan@kcn.jp)

---

## 1. はじめに

天理市自立支援協議会とは・・・

「障害のある人が安心して生活できる地域をつくる」という目標を持つ人達が集って、どう支援していくのかを考える場です。参加者が常に目的意識を持ち実効性のあるものを目指して気持ちを一つにして取り組んでいます。

天理市自立支援協議会のしくみ

天理市自立支援協議会は、障害のある当事者とさまざまな部門で障害のある人を地域で支える実務関係者で構成され、情報共有や地域課題の解決に向けて話し合っています。

- ① 全体会・・・課題を提起し、解決に向けての方策を検討し、課題の振り分けと情報の共有を図る。
- ② 運営委員会・・・全体会の運営、また調整会議で出てきた困難事例・地域課題を課題ごとに内容を議論し、どの部会で解決するかなどを整理する。
- ③ 調整会議・・・相談支援の内容報告、地域課題の発見
- ④ 専門部会(必要に応じて随時開催)・・・課題解決に向けて具体的な施策を考える。
- ⑤ 事務局・・・障害者相談支援センター、天理市社会福祉課障害福祉係

## 2 障害者相談支援活動報告(平成 25 年 10 月～平成 26 年 1 月分)

### ① 支援内容別件数

H25. 10～H26. 1	10月	11月	12月	1月	合計
訪問	33	27	34	25	119
来所相談	25	29	31	29	114
同行	5	4	6	12	27
電話相談	80	57	50	45	232
電子メール	0	0	0	0	0
個別支援会議	9	5	7	11	32
関係機関	30	33	51	49	163
その他	0	0	0	2	2
計	182	155	179	173	689

### ② ニーズ別件数

H25. 10～H26. 1	10月	11月	12月	1月	合計
	延べ回数	延べ回数	延べ回数	述べ回数	
福祉サービスの利用等に関する支援	46	52	65	53	216
障害や病状の理解に関する支援	29	16	12	15	72
健康・医療に関する支援	31	45	53	34	163
不安の解消・情緒安定に関する支援	14	23	15	32	84
保育・教育に関する支援	1	0	0	0	1
家族関係・人間関係に関する支援	3	5	6	3	17
家計・経済に関する支援	16	6	23	9	54
生活技術に関する支援	21	18	15	19	73
就労に関する支援	2	4	5	7	18
社会参加・余暇活動に関する支援	2	3	1	0	6
権利擁護に関する支援	4	2	2	9	17
その他	14	3	17	11	45
計	183	177	214	192	766

### ③ 障害別延人数

H25. 10～H26. 1		10月	11月	12月	1月	合計
身体	肢体	1	3	4	3	11
	視覚	1	0	0	0	1
	聴覚・言語	4	1	1	4	10
	内部	0	0	0	2	2
重症心身障害		2	3	1	4	10
知的		21	16	21	13	71
精神		121	134	170	159	584
発達		17	11	0	0	28
高次脳機能		0	0	0	0	0
難病		10	9	12	5	36
その他		3	0	2	1	6
計		180	177	211	191	759

### 相談傾向について(H25.10～H26.1)

疾患としては、主に統合失調症圏の方の相談が多い。11月～平成26年1月の新規相談においてもその傾向であった。新規相談の紹介経路としては家族や本人からの相談が主であった。

新規・継続相談利用者の年齢層としては、20代～70代と幅広い。20代から40代については両親との同居生活者が多い。一方、50代～60代になると両親が他界されており、単身生活で生活している方が多い。

昨年11月頃から、精神科病院に長期在院中の退院に向けた相談や、退院に伴う他府県から天理市への転居者の退院後の地域生活支援の相談依頼が多かったことが特徴である。

長期在院者や入院ケースの退院支援では、地域で安心して生活できるように、住宅環境の整備や福祉サービス・支援の調整が欠かせない。管理的な病棟環境の中での長期の治療・生活は、安全性や安心感の担保があるとともに、本人の主体的な生活の創造が図られにくく、長期入院の中で意欲や感情なども平板化していきやすいものと考えられる。

退院後の地域生活においても、ある程度の安全性や安心感を保ちながら、様々な経験を獲得しながら、自身の生活を主体的に組み立てていけるような周囲の支援や関わりが重要となる。

今回の退院に向けたケースを通しては、本人のニーズや課題、支援のあり方について特に医療機関との連携や支援の継続性について協力し合うことが出来たことが大きな成果と考えている。

医療機関への通院や、服薬、医師との治療関係。病気や症状とどのように付き合っていくか、など、生活の基盤となる体調や病状との関わりは特に支援の中でも重要となる。また、食事や入浴、睡眠、掃除や洗濯、金銭の管理(経済面の生活の組み立て)など、本人の生活力と必要な支援をすり合わせていくことを大事にしている。

相談での支援だけでは難しい面も多く、医療機関や福祉サービス事業所との情報交換や役割分担など関係機関の連絡調整といった連携は不可欠である。

こもれば 泉水

### 相談傾向について(H25.10～H26.1)

当事者への支援の仕方について、本人の求めるサービス内容と支援者が提供するサービス内容のズレがある。統合失調症のケースは、支援者が生活を組み立てていく事が苦手な本人のニーズを超えてやりすぎない支援。逆に、人格障害のケースは、サービスの範囲外の支援を求めたり、本人の能力があれば十分できる内容も支援者に求める。

社会福祉課 川村

#### 相談傾向について(H25.10～H26.1)

40代の方を中心に継続相談を受けていました。相談方法は訪問、他機関への同行が多く、相談の傾向は、主に、初めて福祉サービスを利用する方への支援、長期間家でひきこもっていた方への支援、難病の方の支援の3つが見られました。

今までサービスを利用したことがない方は、サービスを利用することで自分の生活がどう変化するのかをイメージすることが難しく、サービスの利用に結びつかないことが多い。その為、見学、体験を通してサービス利用後の自分の生活に見通しが立てられるようにすることが大切です。

長期間、ひきこもっていた方の場合、本人、家族にとっても社会に出る第1歩が大きな負担となります。支援する中で、外に出ることによって、今まで本人が感じることのなかった社会の一員として認められ嬉しいと思う感情が本人に芽生えたこともありました。

3つ目に難病の方への支援ですが、サービスの1つとして介護保険の他に、特定難病疾患対象の公費のサービスがあり難病センターとのやりとりも増えました。対象者は介護保険の第2号被保険者対象の疾病の方も数多くみられ、その場合は介護保険が優先になります。年齢的なこともあり今あるサービスの中で、本人のニーズと提供出来るサービスの間にズレが生じてしまうのでサービスの組み立て方が難しいのが現状です。

最後に相談を受ける上での課題ですが、支援はチームで動くので、関係機関との情報共有、支援の方向性の意思統一が一番大切になります。本人のニーズを引き出すことで、優先順位を的確に把握し関わっていくこと、今ある社会資源の中で生活のしにくさを取り除いていくこと、そしてサービスに結びついた後のフォローが重要になってきます。

相談支援センター 曾根

#### 相談傾向について(H25.10～H26.1)

平成25年4月から施行された障害者総合支援法で難病(130疾病)の方々が障害者として認定されることになり、障害福祉サービスが受けられるようになりました。それに伴い、25年中頃から難病の方からの相談が増えてきました。他の障害の方々以上に医療的側面からの視点が重要になり、医療、介護、福祉の関係機関との協議、連携が必要になってきました。

将来に対する不安は多くの障害をお持ちの方に重くのしかかっているが、本人の高齢化、体調の変化と共に、家族の高齢化、家族の不調からサービスの型、量の変更の相談も増えてきています。

相談支援事業所ちゃお 中井

相談傾向について(H25.10～H26.1)

重症心身障害児の相談ケースが増えてきた。医療行為が必要な児童が、地域で生活していくため、福祉サービス全般に関して、利用の仕方等で調整を行うケースが目立ってきている。社会福祉課だけでなく、医療機関や訪問看護ステーション、保健センター、保健所、学校等、関係機関との連携が欠かせない。家族背景や、病状も様々な中、介入のタイミングや支援に結びつくまでには、細かな調整が必要であるし、長期に及んでの家族との関係作りも必要である。家族も毎日が必死で、家族が休息できる機会を作ることの大切さを感じるが、受け入れ先も少ないのが現状で、県下でも課題となっている。受け入れ先を増やすことも必要だが、重心の方は外へでることだけでも大変でもあるので、色んなケースを元に、身近なところからできることを関係機関と連携しながら考えていかないといけないと思う。

又、退院後に在宅生活を行なうにあたっての調整が必要なケースも増えてきている。独居の方や、親が高齢のため在宅で本人の介護が難しいケースが多い。本人は家族背景や体の障害状態により、自分の身に何かあった時の不安が大きいため、施設へ入所した方がいいと訴える方が増えてきた。入所ではなく、住み慣れた地域で生活していくためにも、地域定着支援への取り組みについて、実際に地域で生活する本人へ、具体的に示していく必要性を感じる。

社会福祉課 仲西

相談傾向について(H25.10～H26.1)

高齢のろう者の相談件数が増えた。介護保険の支援の利用について本人の思いと家族の思いにずれが生じるケースもある。介護保険制度の理解も難しく、本人が制度の利用のメリットを理解するのに時間がかかるケースや理解できないまま利用しているケースも見受けられる。

社会福祉課 藤本

### 3 平成 25 年度全体会専門部会の活動報告

#### ◆ 平成 25 年度全体会

課題を提起し、解決に向けての方策を検討し、課題の振り分けと情報の共有を図る。

6月17日(火) 午後1時30分～	年度当初の方針
11月6日(水) 午後1時30分～	中間報告
平成26年3月3日(月)午後1時30分～	年度末の報告

#### ● 運営委員会

全体会の運営、また調整会議で出された困難事例・地域課題を課題ごとに内容を議論し、どの部会で解決するかなどを整理する。

12月4日	平成26年2月17日
-------	------------

#### ● 調整会議

相談支援の内容報告、地域課題の把握

11月4日	12月16日	平成26年2月24日
-------	--------	------------

#### ● 専門部会

課題解決に向けて具体的な施策を考える。

##### ◆ 就労支援部会

わくわくショップの開催	11月25日(月)
-------------	-----------

#### ○部会

成25年度就労部会		平成26年 1月17日	平成26年 2月17日
ワーキング	販売(わくわく準備 含む)	11月18日	12月16日
	余暇(てんりクラブ含 む)	12月5日	平成26年 1月12日
	平成26年2月16日		

## ～就労支援部会報告～

### 【販売ワーキング】

「わくわくショップ」を平成 25 年 11 月 25 日(月)に開催。

当日の細かい調整を行っていたが当日は悪天候の下、開催となった。

### 【反省点】

#### 《日程について》

月次祭(26日)の方が良かったのではないか。土日のどちらかが良かったのではないか。

雨天で風も強く人が少なかった。

#### 《搬入・搬出について》

もう少し早めの時間帯を希望。朝早すぎる。

てんだりー側は問題がなかった。駅前会場～市役所駐車場まで遠すぎた。

風でテントが飛びそうだったので、市担当者から重石を用意してもらった。

#### 《展示について》

「てんだりーcolors」に入ってもらうのに工夫がいる。大きくて見やすかった

もう少し広い方が良かった。「てんだりーcolors」内で喫茶をやればよかったかも。

#### 《イベントについて》

お客様を呼ぶのに苦勞した(駅前スタッフ)。通行人が少なかった(スタッフ)。

寒かったのでコーヒーふるまいは良かった(学生)。

テントに大きく「コーヒー無料配布中」のPOPを貼ればよかった。

フィナーレはみんなで歌を歌い楽しく参加できた(スタッフ)。

天理大学生の「アルス」が上手かった(利用者)。

利用者がフィナーレの曲を披露するのをとても楽しみに日々の練習に取り組んでいた(職員)。

餅つきはお客様が喜んでいて(学生)。外国人が餅つきに飛び入り参加(職員)。

出演依頼しているバンドに当日の天候によるキャンセルは失礼である。

商店街の方に挨拶(授産品のクッキー持参するとか)。

#### 《販売(場所・時間帯・方法)》

「てんだりーcolors」横は4事業所の利用でいっぱいである(職員)。

15時から16時の間商店街の人通りは多かったが、販売時間を遅くすると事業所によって送迎の問題がでてくる。開始時間が早すぎた(駅前スタッフ)。人通りが少ない(駅前スタッフ)。

駅前で店舗と学生喫茶の場所が離れすぎ。売切れが多かったのもっと商品があれば。

授産品販売と大きなPOPを作成すればよかった。(職員)

販売の時に施設の方と話ができて、みんな元気で私も元気をもらいました。(学生)

#### 《チラシ・ポスター》

500枚刷ったが、全部配り終わっていない。チラシ配りの方法を学生にしめす。

配り方に工夫がいる。雨でぬれてしまった。分かりやすくよかった。

あまり目立ってなかった。よく受けとってもらえた。

## 《広報活動》

放送や機器類は事前にチェックが必要。

養護学校に声をかけるなら年間スケジュールが決まる時期 2, 3 月中には声をかけること。

事前にもっと広報活動していればお客様も来たのではないかな。もっと告知してほしい。

## 《ボランティア(人数・配置)》

スタッフ側の細かい指示が必要である。十分だった。よく動いてくれた。

もっと事業所との交流を深めたい。うまく配置できていなかった。

大きな声で呼びかけてくれたので活気があった。

事前実習が必要である。

ワーキングの会議場所を施設でするのも施設に足を運ぶきっかけになるので良いと思う。

スタッフのみの会議でも各施設で行うのは良いと思う。

渡辺先生に授業の一環として取り入れてもらうのも良いアイデアだと思う。

## 《感想》

人が少なかった。雨が残念だった。楽しかった。楽しく踊れた。

わくわくショップ参加団体からフィナーレをしてもらうのも良いと思う。

つきたてのおもちが美味しかった。駅前の販売は大変だった。

啓発に力を注ぐにはどうしたらよいか？駅前には集客に工夫が必要。

企画段階から参加できて良かったです。有難うございました。(学生)。

参加事業所を増やす。細かい打ち合わせが必要。もう少し賑やかさがほしかった。

クイズラリー、スタンプラリーなどを取り入れて人を呼び込む。

## 【パンフレットワーキング】

日中活動系の福祉事業所のデータを HP に掲載していく取り組みを行う事とし、各福祉事業所にデータを提出して頂いた。ワーキングで、集まったデータの内容・文章・写真・必要事項等、内容の確認作業を行い、再度変更項目について事業所に記入の依頼を行った。目次や編集も行い確認事項が終了。データは完成し、天理市のホームページ上に掲載。

ワーキングは一時終了とする。

## 【余暇ワーキング】

以前ワーキングで余暇活動についてのアンケートを行い、集計結果から集える場所・時間が欲しいとのニーズが出てきた。障害のある方の地域生活が円滑にいくように余暇の場の必要性はあると考え、余暇の場として場所・時間を決めてフリースペース「てんりクラブ」を設定していく。

★第 1 回てんりクラブ(平成 25 年 10 月 6 日(日))振り返り : 丹波市公民館

	参加者	学生ボランティア	関係者
	8名	5名	6名

\* 学生ボランティアが動きやすいように、具体的な動きを書いて示す。

\* ゲームをきっかけとし話すことができ雰囲気は良かった。

\* 利用者との年齢も近いので、学生ボランティアとのふれあいが良かった。



- \* 利用者からは定期的に開催してほしいとの声があがった。
- \* 今後も定期的に続けていきたいが、スタッフの確保と場所の確保が重要になってくる。

☆第2回てんりクラブ(平成 26 年1月12日(日))振り返り :天理市文化センター

	参加者	学生ボランティア	関係者
	9名	2名	9名

- \* 部屋の広さはちょうど良かった。
- \* 福祉関係者の方がたくさん来て緊張した。(ボランティア)
- \* 利用者のお名前について(ボランティア)・・名札はつけずその都度聞く。
- \* 第1回目の参加者が4名参加してくれた。
- \* 利用者が話をする場。\* 飲食はあったほうが良い。
- \* ボランティアさんへの明確な指示が必要。

☆第3回てんりクラブ(平成 26 年2月16日(日))振り返り :天理市文化センター

	参加者	学生ボランティア	関係者
	7名	5名	8名

### 決 定 事 項

パンフレットワーキングが終了した事と、会議に参加する日程が多くなると各施設で会議参加が負担になってくるので、ワーキング形式ではなく、就労支援部会の会議時間内で、「販売」「余暇」「その他」について考えていく事とする。

なら東和障害者就業・生活支援センターたいよう  
村上 仁

## ◆ 精神障害者部会

### 精神障害についての理解啓発活動を話し合う

10月9日

12月11日

平成26年2月12日

#### 精神障害者部会報告

開催頻度:2カ月に1回の開催。

メンバー:天理こころの会(精神障害者家族会)、ニチイケアセンター天理(ヘルパー事業所)、天理よろづ相談所病院白川分院相談員(精神神経科ソーシャルワーカー)、天理市社会福祉課障害福祉係、天理市保健センター、地域活動支援センターこもれび、就労支援事業所(B型)こもれび

#### 活動記録

4月10日(水)、6月12日(水)、8月7日(水)、10月9日(水)、12月11日(水)、2月12日(水)部会開催

7月10日(水)民生児童委員(障害・高齢者部会)の研修にて精神障害についての講演

#### 部会の目的

1. 地域の精神保健福祉に関わる各機関の連携を密にし、情報交換をしながらそれぞれのサービスの充実を図る。
2. 今あるサービスで対応できない課題について整理し、運営委員会を通して天理市全体の課題として捉えてもらう。
3. 精神障害者が暮らしやすい地域を作るために、啓発活動を行なう。

25年度は、精神障害者が地域で暮らして行くために必要な地域住民の理解を広げて行くか検討し、長期的な計画を立てることを方針として活動した。そのための活動の一つとして、7月には民生所同委員に向けた講演を行なった。講演会では天理市の民生児童委員のうち、児童・母子・障害者部会の58人が参加し、「地域で暮らす精神障害者の暮らし」についての講演を聴いた(講師:地域活動支援センター 香月祐子氏)。また、市内の精神障害者が利用できる相談機関やサービスを紹介した。アンケートからは、民生児童委員の活動の中で、「精神障害の人とどう接したらいいのか分からない」といった声が多数挙がっていた。(別紙参照)研修会を通じて民生委員とのネットワークが出来た。

部会では、情報交換による横のつながりによって、それぞれの機能が強化できた。また、出てきた課題を運営委員会に伝えて協議会全体で共有し、協議できた。

今後は、地域の精神障害者の生活状況について、ニーズの整理が必要と思われる。啓発活動を続けると同時に、地域を知る活動をしていきたい。

六十谷

## ◆ こども部会

10月5日

11月12日

平成26年1月17日

### 子ども部会報告

昨年度作成しましたサポートブックは、4月より社会福祉課窓口においていただき、直接窓口にお問い合わせのあった方に順次配布していただいています。周知、啓発活動につきましては、支援者に対しては、社会福祉課より4月に校園長会議にて、5月にコーディネーター会議にて紹介していただきました。利用者である保護者に対しては、養護学校に在籍している方は校内の活動である保護者会、学習会などで広まりつつあると思いますが、地域の学校に在籍している保護者に対しての活動が困難で、今後、各事業所への活動と共に検討していく必要があると考えています。

次に、6月の全体会で申し上げました、「障害を持つ子どもたちやその家族が抱えている課題の整理を行う」という活動方針のもとで、現在の天理市における子どもたちを支える社会資源を確認、整理しながら「療育支援マップ」の作成に取り組んでいます。保護者や支援者が現状に対する共通の理解を得ることで、ニーズに応じたスムーズな支援体制の構築、課題の発見、資源の開発につながれば、との思いで始めました。現在、作業の過程で関係者が直接顔を合わせて協議ができることで関係機関のネットワークづくりを担っているという点で大きな意味を持つ取り組みであることを実感しつつあります。今後も継続して取り組んでいく予定です。次回の部会は3月7日10時から開催の予定です。よろしくお願いいたします。

佐上

◆ 権利擁護部会

部会

11月15日
--------

あじさいの会

10月2日
-------

10月29日
--------

◆ 権利侵害検討委員会

10月24日
--------

11月21日
--------

12月17日
--------

平成26年1月30日
------------

権利擁護部会報告

権利擁護部会では、10月2日、10月29日に(何でも はな そう あじさいの会)を開催しました。2日の支援者対象の集まりでは、職種による悩みや大変さの違いに改めて考えさせられる部分があったり、参加者それぞれが自分の思いや、悩みを素直に話して下さってとても良かったと思えました。29日の養育者を対象とした集まりに関しては、参加者が集まらず、残念な形に終わってしまいました。しかし部会としてこういった企画をするにあたってどのように広報したらいいのかを考えさせられるきっかけとなった事は良かったと考えています。国や県の出している虐待相談の件数等を見ても養育者による虐待が多く報告されており、これにめげずに養育者に対するアプローチをしていく必要があると思っています。

2回のあじさいの会を経て反省会を兼ねた部会を開き今後の活動についても話し合いました。あじさいの会に関しては、支援者の対象の会参加者から是非続けて欲しいとの声も上がっていたので、2回目のあじさいの会を支援者、養育者それぞれに2月に行う事としました。又、虐待防止法に関する啓発活動についてもチラシを作り配布したきりになっているので今後の検討課題として考えています。

竹田